

関西大学法学研究所

第 110 回 特別研究会

ドイツ名誉領事ミカエル・ベア の経歴とその孫、原田熊雄男爵

報告 ドヴ・ビング (ニュージーランド ワイカト大学教授、
平成 25 年度政策創造学部招へい教授)

本報告では、1871 年から 33 年にかけてドイツ名誉領事を務めたミカエル・ベアと明治期日本との興味深い関連について紹介する。ベアは 1865 年の初頭に日本を訪れ、明治政府が主導する近代化、とりわけ産業・軍事部門に多大な貢献をなしている。後に、明治天皇は彼に対して、旭日章を授与し、ドイツ皇帝も日独関係の発展への貢献に対して、騎士の称号を授けている。彼はまた、アール・ヌーヴォーで知られるパリ在住の日本美術鑑定家、サミュエル・ビングと義兄弟の関係にもあった。ミカエル・ベアと日本との関連はこれにとどまらない。彼の日本での妻は、荒井ろくと言ひ、二人の間には照子・ベアという美しい娘がいた。照子は後に地質学教授の原田豊吉と結婚し、二人の子供、熊雄と信子をもうけた。熊雄は、後に西園寺公望公の私設秘書となり、後に『西園寺公と政局』知られる「原田日記」を書き残している。本研究で用いられた多くの文書が、モンテヴィデオにあるビング家の文書保管庫、パリのベア家の文書保管庫、フランクフルトのアーレンス社の資料室に由来する。そのほかの文書は、ドイツ外務省の文書館やドイツのほかの文書館に所蔵されているものである。本報告では、これらの文書や写真を紹介しつつ、ミカエル・ベアと原田熊雄とが織り成す日本近代化の軌跡を確認しよう。

討論者 宮島 久雄 (高松市美術館館長)

司会・通訳 安武 真隆 (関西大学政策創造学部教授)

日時 平成 25 年 5 月 29 日(水) 14:30 ~ 17:00

場所 千里山キャンパス 児島惟謙館 1 階 第 1 会議室

- ドヴ・ビング先生の講演は英語で行われます(通訳あり)。
- 聴講自由 多数のご来場を歓迎いたします。
- 問合せ先 関西大学研究所事務グループ 〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35
TEL 06-6368-0329 / FAX 06-6339-7721
E-mail : hogakuken@ml.kandai.jp



主催 関西大学法学研究所
The Institute of Legal Studies, Kansai University